

◆授業設計のポイント◆

- ・ 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化
- ・ 思考を広げ深める手立ての工夫
- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫

音楽科学習指導案

学 級 2年2組 (男子18人女子17人 計35人)

場 所 第2音楽室 (本校舎4階)

授業者 教 諭 本 田 章 子

1 題材 アーティキュレーションや奏法を生かして、曲にふさわしい表現を工夫しよう

【旋律・リズム・テクスチャ】

教材 「ラヴァーズコンチェルト」

(アルトリコーダー二重奏) (D.ランデル・S.リンザー 作曲/橋本祥路 編曲)

2 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年 A(2)ア器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。イ(ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解すること。イ(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解すること。ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。ウ(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付けること。」に関する内容である。

表現活動では、歌唱や器楽が大きな位置を占めているが、器楽となると生徒にとってはリコーダーが身近な楽器となる。リコーダーは、旋律楽器の中でも比較的手軽に器楽の表現を楽しむことができ、簡単なリズム譜や楽譜を視奏する学習を通して、フレーズ感やリズム感などの音楽活動の基盤となる技能を養うことができる楽器である。また、中学校で扱うアルトリコーダーの素朴で柔らかな音色は、独奏楽器として表現豊かに旋律を奏でるだけでなく、音域が広い特徴を生かしてアンサンブルにも適している。

本題材では、二重奏の旋律の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴をアーティキュレーションと関わらせて、どのようにして音楽表現を工夫したらよいか考える学習を展開していく。そのためには、音楽を形づくっている要素や構造の働きによって生み出される曲想を感じ取り、アーティキュレーションを生かしてどのように音楽表現を工夫したらよいか考え、自分たちなりの表現したい思いや意図を共有することが必要になってくる。ペア活動やグループ活動では、自分の表現したい思いや意図を根拠や理由付けを基にお互いに説明し合い、どのように表現していくか言葉でまとめる活動を取り入れる。例えば、拡大楽譜に表現したい曲の感じを書き込んだり、アーティキュレーションや音楽記号を記譜したりして、表現の工夫についてある一定の方向性を見だしながら、話し合うことができるように手立てを工夫していきたい。このように、自分たちの考えた曲の感じを音や音楽で音楽表現することを通して、表現する楽しさや達成感を味わうことができ、音楽表現の工夫が更に幅広く展開されることが期待できる。音楽表現を工夫する楽しさや喜びを体感することで、豊かな表現活動が高められ、主体的・協働的な音楽活動が充実し、生活や社会の中における音や音楽の働き、音楽文化についての理解を更に深めることができると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態 (アンケート対象: 2年2組 男子18人 女子15人 計33人 回答)

今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

1 リコーダー演奏は得意ですか。

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ・得意である (14人) | ・どちらかといえば得意である (6人) |
| ・どちらかといえば不得意である (8人) | ・不得意である (5人) |
| (得意・どちらかといえば得意な理由) | |
| ・知っている曲を吹くと楽しいから | ・曲が吹けるから |
| ・合わせるときれいなハーモニーになるから | ・合奏が楽しい |
| ・リコーダーの音が好き | |
| (不得意・どちらかといえば不得意な理由) | |
| ・音を間違えると目立つ | ・高い音が出にくい |
| ・リズムが分からない | ・指づかいが難しい |
| | 他 類似回答有り |

- 2 アルトリコーダーを演奏する時、何に気を付けて演奏していますか（複数回答可）。
- ・運指(32人) ・タンギング(32人) ・ハーモニー(27人) ・ブレス(26人)
 - ・旋律(24人) ・強弱(24人) ・リズム(22人) ・響き(19人)
 - ・相手とのタイミング(19人) ・速度(15人) ・音色(13人)
 - ・音程(9人)
- 3 1の回答したもので、特にどのようなことに気を付けて演奏していますか。
- [強 弱]・音の強弱を、タンギングで調節している
- ・曲の感じに合わせて、強弱を変えている
- [音 程]・周りの音と違わないように、よく聴いている
- ・音程が外れないように、指づかいや息の強さに気を付けている
- [ブレス]・音を短くするところと、長くするところの違いをつける
- ・音が汚くならないように、音の高さに合わせて息の強さを変えている
 - ・ブレス記号のついている所に気を付けている
 - ・音を切るタイミングがずれないようにしている
- [リズム]・音符の音の長さをしっかり見るようにしている
- [速 度]・速度記号に合わせている ・曲に合った速さで演奏している
- [音 色]・なるべく息を入れて、明るい音で吹くようにしている
- ・音が良くなるように、息の量を変えている
 - ・音色を良くするために、タンギングの強さを意識している
- [運 指]・間違えないようにしている ・サミングが難しい
- 4 ペア活動やグループ活動で自分の考えをグループの人へ伝えることができますか？
- ・できている(21人) ・どちらかといえばできている(8人)
 - ・どちらかといえばできていない(4人) ・できていない(0人)
- (グループ活動で自分の考えを伝えることができている理由)
- ・お互いの意見を出し合うと、新しい考えが作り出せるから
 - ・グループの人が意見を聞いてくれるから
 - ・気付かなかったことに気付けるから
- (グループ活動で自分の考えを伝えることができていない理由)
- ・考えがまとまらない
 - ・音楽用語をあまり知らないから
 - ・自分の意見が間違っているかもしれないから不安
- 5 合唱や合奏をする時、「～のように歌いたい。演奏したい。」という思いをもって演奏していますか。
- ・思いをもっている(24人) ・どちらかといえば思いをもっている(6人)
 - ・どちらかといえば思いをもっていない(2人) ・思いをもっていない(1人)

アンケートの結果から、多くの生徒がリコーダーに親しみ、演奏を楽しんでいることが分かった。リコーダーを演奏する時は、さまざまな奏法や技法に気を付けながら演奏しているようである。また、リコーダーを得意と感じている生徒が14人おり、中には曲の感じに合わせて音色やハーモニーを意識しながら演奏している生徒も10人余りいた。また、不得意と感じている生徒が4割程いることから、個人練習やペアでお互いに教え合う練習を取り入れるなど技術の向上を図る指導が必要だと感じた。多くの生徒は、演奏しながら同時に周りの音を聴くことができている。時には、音や音程などが周りの音と違うことに気付き、改善しようとしていることが分かった。多くの生徒が周りの音を聴きながら演奏していることから、「手引き」を用いてアーティキュレーションの奏法を音で確認しながら、数種のアーティキュレーションを生かした表現の工夫を考えさせたい。

ペア活動やグループ活動では、自分の意見や考えをグループの人へ伝えることができている生徒が多いことから、互いに意見を出し合うことに抵抗なく取り組んでいることが分かる。互いに出し合っ

た意見から、新たな考えが再創造されたり、自分の気付かなかったことに気付くことができたりして、グループ活動を肯定的に考えている生徒が多い。しかし、少数ではあるが、グループ活動で多くの意見が出て意見がまとまらないことや、自分の意見が正しいかどうか不安を感じて、グループ活動に消極的になる生徒がいることが分かる。このことから、自信をもって意見を出したり、意見をまとめやすくしたりするために「手引き」の活用を進めていきたい。また、ペア活動で意見をまとめていく際に、拡大楽譜に付箋で自分の考えた表現したい曲の感じを書き込んだり、アーティキュレーションや音楽記号を記譜したりすることで、意見の交流が盛んになり、音で確かめながら表現の工夫を試行錯誤していくことができるため、新たな意見をつくり出すことにつながると期待できる。

合奏や合唱を行う際には、生徒は楽曲に対する自分の思いや意図を音楽表現に生かそうとしているのが分かる。アーティキュレーションを生かして音楽表現の工夫を考える本題材では、自分の思いや意図が音や音楽で表現できているか振り返らせたい。一題材を通した「学習評価表」で、何を学ぶか、どのようにして学ぶかを題材の導入の段階で理解させ、生徒一人一人が本題材における学習課題を具体的に設定する場を設ける。題材を通しての振り返りの場面では、生徒自らの言葉で何ができるようになったか、自分の変容を言葉で表現でき、更には生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関わりについて考え、学んだことの意味や価値が自覚できるような場の設定を行っていきたい。

(3) 指導観

本題材を扱うに当たり、次のようなことに留意して指導を進めたい。

- ア 音楽を形づくっている要素を知覚させ、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせながら、それを基にどのように音楽表現するか試行錯誤する過程において、生徒の思考の流れ（気付き→納得→意志）を想定した支援を行い、主体的・創造的な表現活動へつなげさせる。
- イ ペア活動、グループ活動の中で「手引き」を活用しながら、知識や技能を得たり生かしたりする活動や、話し合いや合奏練習で様々な表現の工夫を繰り返し試す場を多く設定し、自分たちの思いや意図をどのように表現に生かすか考え、工夫して演奏する主体的な表現活動へつなげさせる。
- ウ 学習評価表の活用によって、学習のプロセスを見通し、振り返る場面を設定することで、学んだことの意味や価値を自覚させ、次の学習への意欲を喚起させ、今後の音楽活動への意欲につなげさせる。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造、アルトリコーダーの音色や響きと奏法との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で他者と合わせて演奏することができる。 (ア 知識及び技能)
- (2) 旋律の特徴を感じ取り、アーティキュレーションと関わらせながら、どのように表現するかについて思いや意図をもち、音楽表現の創意工夫に必要な知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を工夫することができる。 (イ 思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造、アルトリコーダーの音色や響き、奏法との関わりについて興味関心をもち、アーティキュレーションを生かした音楽表現を工夫しながら、主体的・協働的に取り組むことができる。 (ウ 学びに向かう力, 人間性等)

4 題材における評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
○ 曲想と音楽の構造、アルトリコーダーの音色や響き、奏法との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で他者と合わせて演奏している。	○ 旋律の特徴を感じ取り、アーティキュレーションと関わらせながら、どのように表現するかについて、思いや意図をもっている。 ○ 音楽表現の創意工夫に必要な知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい表現を工夫している。	○ 曲想と音楽の構造、アルトリコーダーの音色や響き、奏法との関わりについて興味関心をもち、アーティキュレーションを生かした音楽表現を工夫しながら、主体的・協働的に取り組もうとしている。

5 指導計画（全2時間）・〔単位時間における評価規準〕

時間	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1	<p>1 「ラヴァーズコンチェルト」の運指・リズムを確認し、二重奏で演奏する。</p> <p>2 数種のアーティキュレーションについて確認する。</p> <p>3 曲の前半部分 A アーティキュレーションを生かして、どのように演奏するか話し合う。</p>	<p>○ 曲想と音楽の構造アルトリコーダーの音色や響き、奏法との関わりについて理解している。</p>	<p>○ 旋律の特徴を感じ取り、アーティキュレーションと関わらせながら、どのように表現するかについて、思いや意図をもっている。</p>	<p>○ 曲想と音楽の構造アルトリコーダーの音色や響き、奏法との関わりについて興味関心をもっている。</p>
2 (本時)	<p>1 前時の学習を振り返り、グループごとに曲の後半部分 Aの表現の工夫について話し合う。</p> <p>2 リコーダーの音色や響きアーティキュレーションの演奏効果が生かせるように練習し、発表する。</p> <p>3 工夫した点と演奏を照らし合わせながら聴き、その演奏について批評する。</p>	<p>○ 創意工夫を生かした表現で他者と合わせて演奏している。</p>	<p>○ 音楽表現の創意工夫に必要な知識や技能を得たり生かしたりしながら曲にふさわしい表現を工夫することができる。</p>	<p>○ 曲想と音楽の構造アルトリコーダーの音色や、響きとアーティキュレーションとの関わりを生かした音楽表現を工夫しながら、表現活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。</p>

6 本時の実際 (2/2)

- (1) 題材 アーティキュレーションや奏法を生かして、曲にふさわしい表現を工夫しよう
- (2) 目標 音楽を形づくっている要素や要素同士の働きを感じ取り、アーティキュレーションや奏法を生かして音楽表現を工夫することができる。

(3) 授業設計の工夫

ア 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具現化 研究の視点1

表現の活動において、既習事項を確認しながら、新たな知識や考え方を身に付け、思いや意図を音楽表現できることを深い理解に至った生徒の姿と考える。

- ・ 生徒の思考の流れ（気づき→納得→意志）を想定し、既習事項の活用や演奏の比較により試行錯誤させることで、主体的・創造的な表現活動につなげさせる。

イ 思考を広げ深める手立ての工夫 研究の視点2

- ・ 曲にふさわしい音楽表現の工夫を自分の言葉で伝え、話し合わせる。
- ・ ペア活動やグループ活動で話し合ったり、リコーダーで音を試したりしながら自分たちの思いや考えを深めさせ、主体的・協働的に音楽表現を工夫させる。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫 研究の視点3

- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る場面を設定し、学習評価表を活用することで、学んだことの意味や価値を自覚させ、今後の学習への意欲につなげさせる。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

協働するカレレベル2	
<p>【子供の姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい表現をするには、どのようにして音楽表現を工夫したらよいか、自分の思いや意図をペア活動やグループ活動でお互いに出し合い、考えの共通点や相違点を見つけることができる。 	<p>【手立て】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽の基礎基本事項をまとめた「手引き」を活用し、様々なアーティキュレーションを理解させる。 旋律の特徴を感じ取り、どのように表現したらよいか自分の思いや意図を楽譜に書き込み、お互いの考えの共通点、相違点を比較したり、分類したりしながら話し合わせる。

(5) 展 開

過程	時間 形態	主 な 学 習 活 動	○ 指 導 上 の 留 意 点 ◎ 評 価 ※ 授 業 設 計 の 工 夫
展 開	3分 一斉 2分 一斉	1 前時の活動について振り返る。	○ 前時の活動を確認し本時の学習への意欲を高める。 ○ 本時の課題と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。 ※ 本時の学習課題を知り、学習の見通しをもつことができるようにする。 研究の視点3
		2 本時の学習課題を確認する。 曲にふさわしい表現をするためにはどのようにアーティキュレーションを工夫したらよいだろうか。	
展 開	15分 個 ↓ ペア グループ	3 曲の後半 A のアーティキュレーションを考える。 【気付き】 ・ 最後は終わる感じだからテヌートで丁寧にした方が良い。 ・ 曲全体に勢いがある弾んでいる感じなので、最後の音も前に進んだ感じで終わろう。 ・ 最後は終わった感じにしたいので、リタルダンドを付けよう。	○ 前時に学習した前半 A のアーティキュレーションの奏法を参考にしながら、曲の後半の部分 A の旋律とアーティキュレーションとの関わりを理解させ、表現の工夫をどのようにするかについて考えさせる。 ※ 前時の学習で書込をした楽譜を活用し、既習事項を確認しながらアーティキュレーションの奏法の例を示し、それらを生かした音楽表現を考えさせる。 研究の視点1
		4 リコーダーの音色や響き、アーティキュレーションが曲の感じに合っているか確かめながら、練習する。	
	10分 ペア グループ	5 工夫した点を発表し、演奏する。	○ 話し合った内容を表現に生かすように練習させる。 ◎ 様々なアーティキュレーションの奏法を音で確かめながら、音楽表現を工夫しようと主体的に取り組んでいる。 ◎ 音楽表現の創意工夫を生かした表現で他者と合わせて演奏することができる。 ※ 話し合っただけを基に、ペアやグループで演奏しながら音楽表現を工夫させる。 研究の視点2
15分 一斉	6 音楽表現を工夫した演奏について良かった点や、改善点を発表する。 【納得】 ・ レガートを使うと、なめらかな感じになる。 ・ 主旋律のアーティキュレーションを、副旋律と違うアーティキュレ	○ 工夫した点に気を付けながら聴かせる。 ◎ 発表者の工夫した点を意識しながら、演奏を聴くことができる。 ※ 既習事項を活用して奏法や音色を変化させたり、音楽表現を工夫させたりしたことで、曲の感じが変化していることを感じ取っている。 研究の視点1	

		<p>ションに変えたら、主旋律を強調させることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 速度や強弱を変えて演奏すると、もっと曲の感じが変わりそうだ。 	
終 末	2分 一斉	<p>7 授業の振り返りをする。</p> <p>アーティキュレーションの組み合わせ方や、アーティキュレーションの表現の仕方を工夫することで、表現したい曲の感じを表すことができる。</p>	
	3分 一斉	<p>8 自己評価をする。</p> <p>【意志】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これからは、楽譜に書かれている音楽記号に気を付けて、しっかりと表現できるように演奏しよう。 ・ 作曲者の思いが楽譜には書かれているのだから、楽譜をよく見て演奏しよう。 ・ 鑑賞の時は、いろんな奏法をよく聴き比べて聴くようにしよう。 	<p>○ 本時のまとめを学習評価表に記入させる。</p> <p>※ 学習評価表で授業を振り返るとともに、学んだことの意味を自覚させることで、次の学習へのつながりを意識させることができる。</p> <p style="text-align: right;">研究の視点3</p>
		<p>9 次時の予告を聞く。</p>	